

今年度は医療の進歩やニュースなどで話題となったものを中心に取り上げていきます

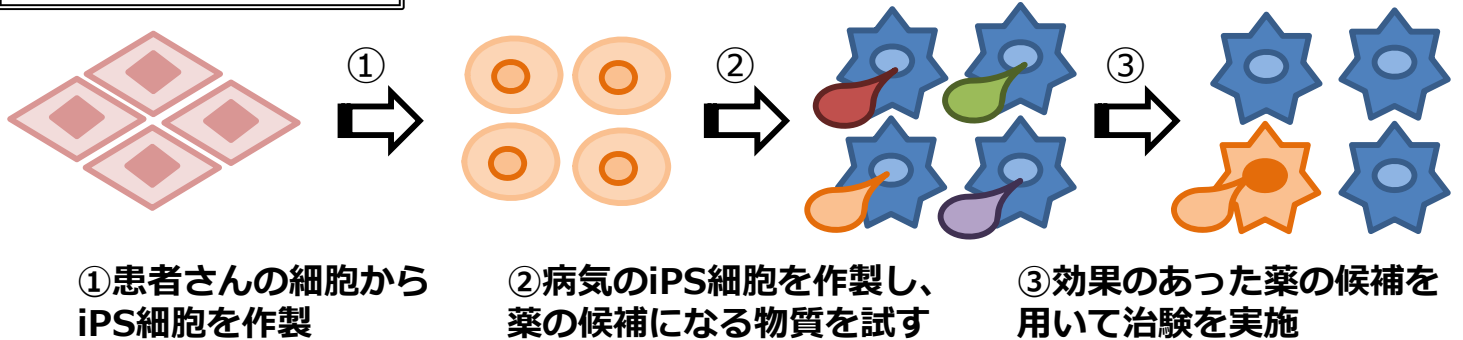
iPS細胞は心臓や神経、肝臓など**様々な細胞になれる能力**を持たせた細胞で、京都大学の山中教授がノーベル賞を受賞したことで有名ですが、最近さまざまな医療に応用され始めています。今回はその例をいくつか紹介したいと思います。

理化学研究所では加齢黄斑変性に対する自己iPS細胞由来網膜色素上皮シート移植の安全性を検討する臨床研究が行われています。その計画は①**患者さんの皮膚から培養した細胞**に初期化因子というものを導入し**iPS細胞を培養**②培養した**iPS細胞から網膜色素上皮細胞を分化**してシートを作成③作成した**自己iPS細胞由来網膜色素上皮シートを網膜に移植**するというものです。臨床研究にエントリーされた2名のうち1名に移植が実施され、1年後の評価において腫瘍形成、拒絶反応など認めず、視力は移植前の状態を維持しており、経過は良好に推移しているようです。

また、東京大学生産技術研究所のチームが**iPS細胞から運動神経の束を作ることに成功**し、運動神経の異常で起こる難病「筋萎縮性側索硬化症」などの病気の治療薬開発につながる可能性があると言います。これまでもiPS細胞から細い運動神経を作ることはいま出来ていましたが、**体内により近い状態の神経の束**を作ることにはできておらず、確実に技術が進歩しています。

さらにはiPS細胞を新薬の開発に使う「**iPS創薬**」が実用段階に入ってきています。患者さんの細胞より作製したiPS細胞から、病気の状態のiPS細胞を作製し、**多数の薬の候補となる物質を試す**ことで、これまでとは桁違いの速さで薬の候補を絞り込むことができるようになり、**創薬の成功率が上がる**と言います。京都大学では世界初となる「iPS創薬」による薬を用いた、筋肉の中に骨ができる難病「進行性骨化性線維異形成症」の治験を今年10月に開始したと発表しており、**画期的な新薬が生まれにくい現状を打破できる**との大きな期待がもたれています。

iPS創薬のイメージ



なかよし薬局では、地域貢献型の医療を目指して一緒に仕事をしてくれる薬剤師を募集しています！
詳しくは下記連絡先まで！

株式会社イノベーションオブメディカルサービス 厚木支社 (採用担当) 電話 : 046-220-1171
電子メール : recruit@ims-inc.co.jp

なかよし薬局 (全18店舗)
船子店、東名店、高森店、愛川店、関口店、愛甲店、妻田店、局前店、恩名店、酒井店
湘南台店、狹野店、愛甲南店、中津店、栄店、みらいが丘店、東大竹店、妻田南店

Editor: Ichikawa